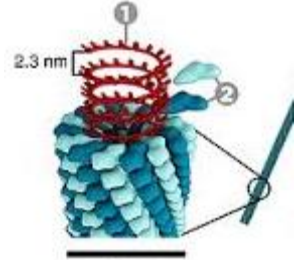


# ウイルス、レトロウイルス、ファージ

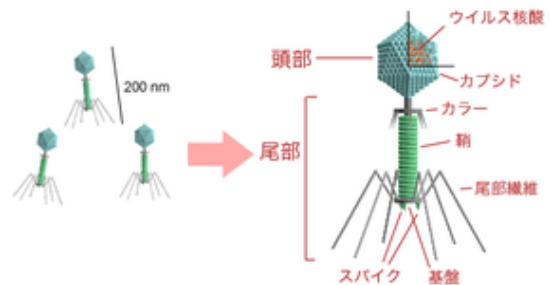
<https://l-hospitalier.github.io>

2017. 5

【**宿主特異性**】ウイルスは特定の生物にのみ感染する。最初は宿主細胞への吸着能（受容体）が重要。例えばインフルのヘマグルチニン（hemagglutinin、H2N3 の H）は粘膜細胞や赤血球の糖蛋白（シアル酸）と結合する。【**暗黒期、eclipse phase**】いったん細胞膜を通過して細胞質へ侵入するとウイルスはエンベロープやカプシドを脱ぎ捨て核酸となる。この核酸は感染力を持たない。①DNA ウィルスでは宿主の RNA ポリメラーゼを利用して mRNA を合成する。RNA ウィルスでは②一本鎖（ss）+鎖 RNA（ポジティブセンス RNA）では、そのまま mRNA となる。③-鎖 RNA ではいったん+鎖 RNA に転写され mRNA となる。④レトロウイルスでは+ssRNA の場合まず逆転写酵素<sup>\*1</sup>が-ssDNA を生成、この DNA が宿主のゲノム（遺伝子）に組み込まれる。宿主遺伝子に組み込まれたウイルス DNA は通常のルー



①RNA ②蛋白



トで mRNA に転写される。逆転写過程は通常の DNA→RNA と比べると誤りが多いのでウイルスは変異しやすくなる。ウイルスの研究ははじめ【**タバコモザイクウイルス、TMV**】で始まった。タバコの葉にモザイク状の斑点ができる植物病の原因（一本鎖 RNA、ボルチモア分類 4 型）。1883 年には伝染する病原体として認識され、素焼きフィルターでろ過しても病原性を持つので濾過性病原体と呼ばれた。1935 年ウエンデル・スタンレーが結晶化、この結晶も病原性を持っていた。1955 年には中心の RNA と周りのカプシド蛋白は近づくと自動的にウイルスを形成するのが判明（化学構造の自由エネルギーが最低になるのがウイルス構造）。1958 年ロザリンド・フランクリン（ワトソンとクリックに DNA の 2 重らせんの X 線回折像を示したことで有名）は TMV の X 線回折像から TMV の分子模型を作成。この TMV は①蛋白変性剤で失活②蛋白分解酵素で失活③TMV に対する抗血清が得られたなどから蛋白質と判明。【**バクテリオ・ファージ**】ファージとは「食べるもの」の意。固形培地上の細菌のプラークを溶菌させて透明なスポットを作るウイルス。研究が進み大腸菌に遺伝子を組み込むベクターとしての利用が重要となった。T4 と呼ばれるファージは特によく研究された。頭部に ds（二重鎖）-DNA を持ち T4 ファージの尾の先端にある基盤を構成する蛋白質にはリゾチームとして機能する部分があり、これがペプチドグリカンを加水分解して細菌の細胞壁に穴を開ける。



細菌に吸着するファージ→

\*1 RNA ウィルスがどうして多数の RNA を複製するのか不明であったが、一旦 DNA に転写（逆転写）できればあとは PCR を使って合成できる。逆転写酵素 reverse transcriptase は 1970 年ハワード・テミンとデビッド・ボルチモアにより独立に発見された（1975 年ノーベル賞）。RNA ウィルスの PCR 検査は逆転写酵素を使って可能になった（いわゆる RT-PCR 法）。\*3 ラ。\*4